

優良農家の紹介

丹波の秋を発信“観光果樹園に取り組んで”

氷上郡山南町奥野々の河村修治さん（51歳）は、平成3年、父の突然の病気からサラリーマン生活に終止符を打ち、父の経営していた「石戸^{いしど}観光農園」約2haを継いだ。1995年にはくり、ぶどう等75aを増反し、現在の栽培面積は2.65haとなっている。

無我夢中で果樹栽培に関する技術を習得する中で、特にくり栽培を通して多くの事を教わったと話される。「一本一本の木に語りかけるように思いを込めて…」の河村さんの心情は、栽培管理にも現れ、生産量・品質とも群を抜き、氷上郡のモデル果樹園となっている。

現在、奥さんと二人三脚で、消費者に喜んでもらえる果樹づくりに邁進している。

栽培品目はくり、ぶどう、りんごが中心となっている（表）。販売方法は、観光もぎ取りと直売形式（お土産、贈答用）をとられており、期間中は多くの人で賑わっている。

表 栽培品目と面積

品 目	面 積	導入時期
く り	7 0 a	1975・1995年12月
ぶ だ う	1 0 0 a	1975・1995年12月
りんご	6 0 a	1981年
銀 杏	1 5 a	1987年
か き	1 0 a	1987年
その他	1 0 a	1987年12月
合 計	2 6 5 a	

1 徹底した樹体管理によるブランド維持

樹園地は名称のとおり石が大変多く、水源が極め

て乏しい所であるが、樹齢25年を経過しようとするくりを樹高3.5mに制限し、県下でもトップクラスのくり低樹高栽培を実践している。栽培品種は銀寄45%、筑波44%、国見11%、収量は400kg/10a、生産物等級は2L以上80%、L18%、M以下2%と文字どおり高品質な「丹波栗」を生産されている。

先人が築き上げられたブランドに対し、厳しい姿勢で生産・販売に臨み、篠山市と氷上郡の栗振興会の毎年協賛で行われる「丹波栗品評会」では、知事賞を度々受賞している。

2 氷上郡観光農業の牽引者

河村さんは、氷上郡観光農業協会の会員で、氷上郡の観光農業のあり方についても研鑽されており、先進地視察、栽培技術、販売方法、消費者ニーズ等の把握には余念がない。

消費者ニーズへの対応には個人の経営範囲だけでは限界があり、志を一にする仲間と連携をとり、互いの足りない部分を補完しあえる、効率的な体制について検討を深め実践している。

現在、ホームページの開設に取り組んでおり、消費者への情報発信や注文とりなど顧客管理に利用すべく検討している。まずは、園内の季節の便りや作業状況、熟期情報などの提供をと夢をふくらませている。

竹村 雅敏（柏原普及センター）



ひょうごの農業技術 No.118

平成13年11月1日（隔月刊）

1部250円（申込先・県立中央農業技術センター）

兵庫県立中央農業技術センター（0790）47-2400

兵庫県立北部農業技術センター（0796）74-1230

兵庫県立淡路農業技術センター（0799）42-4880